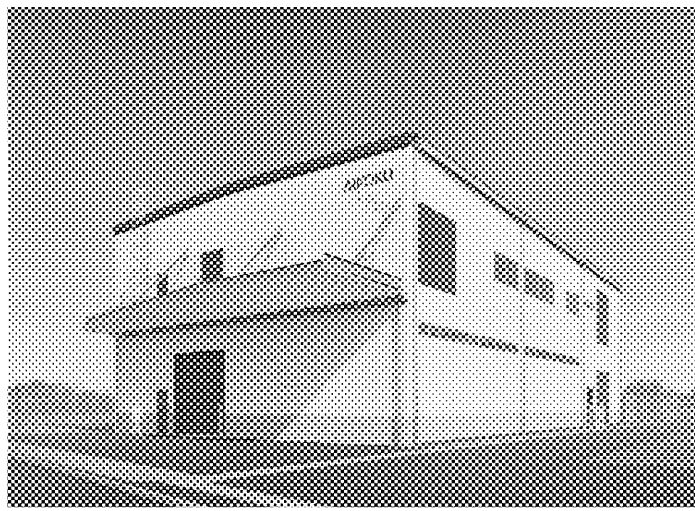


アイコクアルファ、新工場

金型・工具 技術交流促進



【名古屋】アイコクアルファ（愛知県稲沢市、樋田克史社長）は、自社で使用する金型や切削工具を手がける「第12工場」を本社工場敷地内に建設する。自動車向けを主体とする同社の冷間鍛造事業では金型を自社で設計・製作し表面処理している。一方、精密切削加工事業では使用する工具の約9割を自作している。新工場では両事業部の技術交流を促進し、金型・工具に共通する表面処理の技術を高めるなど相乗効果を狙う。建屋と設備を合わせた投資額は約11億5000万円。2025年2月ごろに移転を予定する。

新工場は2階建てで、延べ床面積は約1万5000平方メートル。設備は既存機械を移設するほか、コーティング設備や工具の研削盤などを追加で新規導入する。冷間鍛造を担う「CF事業部」と切削加工を行う「AP事業部」の従業員計19人が同工場で勤務する。

CF事業部では金型の長寿命化や材料の流れを良くするためコーティング技術を追求している。AP事業部でも工具の寿命を左右するコーティング処理が▲金型・工具に共通する表面処理の技術を高めるなど相乗効果を狙う（第12工場の完成予想図）

重要な要素となる。表面処理をはじめ両事業部が抱える課題について情報交換し、既存の技術を活用したり相互に技術を高め合ったりすることを期待する。

アイコクアルファはCF事業部、AP事業部のほか、ハンドクレインを手がける「RH事業部」、コンピュータ利用設計・製造（CAD/CAM）システムなどを扱う「MS事業部」の4つで構成する。事業部ごとに業績に連動した賞与を支給するなど独立性の高さが特徴で、競争を促して全体の活性化につなげている。

一方で事業部間の技術交流が課題だった。現状は事業部ごとに工場棟が分かれているためコミュニケーションが難しい。春日井昇一取締役は「同じ場所でも働いてもらうことで自然に交流が生まれれば良い」と新工場の狙いを話す。